

校訓	友 勤 自 愛 勉 治	 令和7年度 東中だより 第10号	発行日	令和7年10月24日
教育目標	多様化の時代を生きる 心身ともにたくましい生徒の育成		発行者	伊丹市立東中学校 校長 前田 徳三

【ノーベル賞】

10月6日に坂口志文氏（大阪大学特任教授）が、体内の過剰な免疫細胞の働きを抑えるリンパ球の一種である「制御性T細胞」を発見し、ノーベル生物学・医学賞を受賞されることが発表されました。この発見は、免疫疾患やアレルギーの治療に向けた研究に道を開き、さまざまな病気の治療に役立つと考えられています。また、がん細胞の動きも止めてしまうこともわかっています。人類にとって大きな成果だと期待されています。

また、2日後の10月8日に、北川進氏（京都大学特任教授）が構成要素を変え、特定の物質を捕まえたり、貯蔵したりすることができる「金属有機構造体」の開発においてノーベル化学賞を受賞されることが発表されました。この発見は、さまざまな環境問題の解決につながると期待されており、地球温暖化の原因になる二酸化炭素を回収する素材の開発が、すでに多くの企業で始められています。この2名の受賞は、慶賀の至りです。



坂口氏は、幼い頃から自宅の本棚は父の蔵書（所有している多数の図書や資料）であふれ、「本を読みなさい」が教員であった父の口癖であったと言われています。そのため、暇さえあれば蔵書を引っ張り出して読みあさっていたと報道されています。読書習慣が身についていたからこそ、今回の世界的な業績も残せたと考えられます。学校にもたくさんの本があります。是非、多くの本を借りて、読書をする機会を増やしてもらいたいと思います。

また、北川氏は、受賞されることが決まった時に報道陣に対して、細菌学の父と呼ばれているルイ・パスツール（フランスの生化学者・細菌学者）の言葉をあげていました。『幸運は準備された心にのみ宿る』という名言です。北川氏は、「いい先生、友だち、学会での付き合いに恵まれました。それは準備された心なんです。ある日、突然宝くじを引いて当たったわけじゃない。いろんな経験を大切にしていくとそれが将来花開く、そう言いたいですね」と、とても素晴らしい言葉を述べられ、大変勉強になり、感動しました。

かつて、多くのノーベル賞を受賞された方々が言われた奥の深い話を紹介します。2008年ノーベル物理学賞を受賞した益川敏英氏は、「自分の本当の適性というものは、やってみなきゃわからないという側面がある。何もしないのが一番いけない。まず、第一歩を踏み出すこと。踏み出すという実践の中から視野は広がる。あまり狭く考えないほうがいい。自分らしさや心のニーズを発見するためにも、考え込むより、まずは何にでもチャレンジしてみることである」と言われていました。

また、2021年ノーベル物理学賞を受賞した真鍋淑郎氏は、「異なった環境を自分に与えることは若者や学生に限らず、中高年や先生方にも必要である。個人も多様な

環境に身を置くことで、発想や感覚が豊かになる。また、人としての包容力も広がる」と指摘していました。また、「若い人に言いたいんだけど、格好のいい研究、格好のいい分野を選ぶことは、必ずしも考えないで、本当に自分がやりたいと、自分の好奇心を満たすような研究をやってほしい。興味があって、得意なことをやれば、一生楽しい人生を過ごすことができる。これからぜひ、そういう研究をしてもらいたい」とされていました。

さらに、ノーベル文学賞を受賞し、20世紀を代表する小説家のヘミングウェイは、「人より身分が優位なことが気高いのではない。真の気高さとは、過去の自分を超越することなのだ」と人生の教訓となる言葉を残されました。

一方、2012年にノーベル生理学・医学賞を受賞した山中伸弥氏は、お父さんの病身治療に役立ちたいと願って医師を志されていました。しかし、技術の未熟さと適性の欠如を宣告されて臨床医を諦め、やむなく研究医として専心されたと言います。その結果、前人未踏の大発見に到ったことは有名です。身近な人のためのみならず、誰かのため、世のため、人のために大きな願いに向かう時、強い意欲が湧き上がります。



「失敗は成功の母」という意味に近い言葉を残したエジソンも電気を発明する過程で多くの失敗を重ねましたが、それを失敗とは考えずに、成功に至りました。失敗は成長と同じ意味だと考えていたようです。だから、失敗のない人生は成長のない人生と言えます。失敗の中で一つひとつ学んでいく。まず、やってみることなくして失敗はありません。

作家で俳優の中谷彰宏さんは、「人間は二通りしかいない。成功者と失敗者ではない。成功も失敗もする人と、成功も失敗もしない人である」と言っていました。常識にとらわれることなく、自分のしたいことを思いっきり挑戦することを忘れないで欲しいと思います。みなさんはどのように受け止めましたか。

およそ20年後の35歳になったときのことを想像してください。どんな大人になりたいですか、どんな仕事に就いて、どういうことをしてみたいですか。想像をすれば、自ずと今の自分を客観的に見えてきます。35歳の自分を想像することは難しいことです。でも、勉強をしっかりとやり、面白いこと、興味のあることにであつたら、今のうちに好きなものを溜めて、磨いてください。好きなことを自分の中に取り込んでおくと、好きなことがだんだん光ってきます。そして、それを磨いてほしい。

幸福の便りというものは、待っている時には決して来ないものだ。（太宰治）

【学習発表会】

10月24日（金）に第78回学習発表会を開催しましたところ、大勢の保護者や、来賓のみなさまにお越しいただき、誠にありがとうございました。



展示発表では、子どもたちの日頃の努力や個性、伝えたい思いや気持ちをたくさん感じることができました。また、合唱コンクールでは、爽やかな心のこもった歌声が、体育館いっぱいに広がり、子どもたちが楽しそうに歌っている姿に、私自身、目頭が熱くなりとても感動しました。心を一つに目標に向かって必死に頑張り、真剣に取り組んでいる姿は、とても素晴らしいと感じました。最高（最幸）の学習発表会でした。